

名 称	吉岡町生涯学習ボランティア活動支援センター
所在地	〒370-3692 群馬県北群馬郡吉岡町下野田 560 吉岡町教育委員会
連絡先	TEL : 0279-54-0044 FAX : 0279-55-5933 URL : http://www.town.yoshioka.gunma.jp

地域の現況・特色

活動対象地域の人口 吉岡町 18,500人

吉岡町は、関東平野の北部に位置し、上毛三山（赤城・榛名・妙義山）のうち榛名山の東麓、坂東太郎利根川の西岸に当たる。県都前橋市までは車で20分、近くには伊香保温泉や日本3うどんで有名な水沢うどんがある。近年まで養蚕農家が多くあったが、関越自動車道・都市計画道路・利根川に架かる上毛大橋・関越道駒寄スマートインターの開通等の外的要因により、都市近郊農村からベッドタウンへと変わりつつある小さな町である。全国的に少子高齢化が一段と進んでいるが、吉岡町は人口増加率では県1・2を争い、子どもの数も増加傾向にある町でもある。

コーディネートした事例の名称、概要、特色

名称 「吉岡町成人式ボランティア活動」

町内小学5年生から中学2年生を対象に「成人式ボランティア」を募集する。ボランティアの活動内容は式典の「司会」、新成人・来賓の「受付」を行う。

吉岡町は小さい町なので中学校は1校である。新成人は中学校を卒業してから一同に集まるのは初めてとなる。よって同窓会的な和気藹々とした雰囲気の中で成人式が行われる。そんな楽しい雰囲気の中で、成人式ボランティアが成人式のお手伝いをするようになって3年目となった。

式典が始まる約1時間前から新成人が集まり始め、式典開始30分前には大勢の新成人（該当者約220人）が集まる。もはや同窓会状態である。圧倒されるような状況の中で「おめでとうございます」と、可愛らしい声と笑顔で新成人の門出を祝うと、一斉に受付をしている子どもたちの方へ新成人が移動する。毎年なぜか成人式ボランティアは女子がほとんどである。

式典開会。女子中学生1人による司会で式典が進行して行く。来賓では、恩師の番になると今まで静粛に行われていた式典が、一斉に歓声の渦に巻き込まれる。完全に同窓会モードに入る。その後、後輩である中学校合唱部の記念合奏で「校歌」になると、中には口ずさむ

新成人も。成人式ボランティアは数年後の自分たちの姿を見ているようで皆笑顔であった。

名称 「吉岡町人権教育講演会ボランティア活動」

吉岡町人権教育推進協議会・吉岡町教育委員会による「人権教育講演会」を子どもボランティアが参加するようになって3年目を迎えた。

講演会の内容は、町内保育園・幼稚園児によるお遊戯・楽器演奏の発表、小中学生による人権作文発表、そして著名人の講演である。

町内のボランティアグループ「ねこの手 Jr」（ねこの手は大人、Jr は子ども）のお手伝いを得て、講演会の「司会」「講師接待」「大道具係」「受付」「会場案内」を行う。

吉岡町の人権教育は、幼児・児童・生徒を中心に進めている。そんな中でのボランティアによる講演会運営は、大人に人権について何かを考えてもらう良い機会にもなっている。

コーディネートの実際

吉岡町は小さい町であり、ボランティアを提供する側も受ける側も、ボランティアに対する意識がまだ低い。まして青少年のボランティア活動となるとなおさらである。何かあったら大変と受け入れ側の心配が先走る。しかし、青少年が多く体験をすることが大切であるとの観点から青少年に働きかけて、ボランティアを募集した。そこで、「人権教育講演会」に青少年のボランティア活動の受け入れを行った。

成人式ボランティア活動 … 教育委員会事務局員による成人式が永年続き定着していた。成人式に子どもをボランティアとして参加させたいと提案した時は、公式行事に子どもを参加させるのは如何なものか、ボランティアとして参加させて「失敗」したらどうすると、不安材料だけが出てきた。しかし、「失敗」しない為の十分な準備をし、「失敗」したとしても人生に役立つ経験と考え、募集をかける。司会を担当する中学生の応募が少ない。平成17年度は女子1人、受付係の小学生は7人。それでも応募してくれるだけあって皆元気な子どもたちが集まった。顔合わせを兼ねた打合せを行う。司会者は前日の仕込み時にマイクの音合わせとリハーサルを行う。そして本番では、みんな元気に取り組んでおり、成功裏に終わることができた。

人権教育講演会ボランティア活動 … ねこの手ボランティアグループは、生涯学習教養講座の「プランナー養成講座」に参加した人びとで組織するボランティアグループである。忙しい時に猫の手も借りたいと言ったことから付けられた名前である。まさにボランティアにふさわしいネーミングになっている。ねこの手 Jr は、ねこの手ボランティアグループの下部組織で、子どもたちで組織しているボランティアグループである。

ねこの手ボランティアグループが子ども向けの事業の企画立案を続けているうちに、子どもができるボランティア活動はないだろうかと話合われた。その結果、子猫・Jr が誕生したのである。

教育委員会主催の人権教育講演会は堅苦しい内容となっていた。人権と名が付くだけで人は集まらない状況である。そこで、子どもが参加できる人権教育講演会を検討する。従来児童・生徒の作文発表だったものに、園児の発表を加えることにした。また、子どもたちが発表するのだから成人式と同様、子どもたちに運営させてみてはと発想が膨らみ、子どもボランティア活動事業とした。

活動内容のうち、講演会の「司会」「講師接待」「大道具係」「受付・誘導係」「講師接待」は高校生ボランティア、他は小中学生が担当した。心配している事務局員をよそに、子どもたちは上手に係の仕事をこなしてきた。

改善点・留意点

公式行事で子どもがボランティアとして参加するのはどうかという声の中、出発させた活動であった。しかし、大人だけの行事でなく子どもを含め町民全体で取り組む行事でもあるし、子どもたちに色々な体験を経験してもらいたくて実施した結果、子どもたちの笑顔が物語るとおり「やって良かった」と思う。子どもボランティアのことであるから、大人目から見れば、まだまだという点が見られても、子どもたちには「達成感」が得られたようである。この体験が小・中・高校を通じてボランティア活動への参加や将来何かの役に立てば幸いである。

今後は、ボランティアに参加したくても、ちょっとした勇気がないために自主的に参加できない子どもたちが、気軽に参加できるような環境作りを目指してゆきたい。

結びに、ボランティアに参加してくれた子ども全員にもう一度「ありがとう」。そして全員を誉めてあげたい。来年もよろしく！



成人式ボランティア受付風景

執筆者職・氏名：吉岡町教育委員会 生涯学習課 社会教育係長 南雲 尚雄